

令和8年度予算見積調書

課室名: みどり自然課
担当名: 野生生物担当
内線: 3154

(単位: 千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
P30	野生動物レスキュー事業費			一般会計	総務費	環境費	自然保護対策費	生物多様性保全推進事業費	
事業期間	平成19年度～	根拠法	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律	針路分野施策	101003	10	豊かな自然と共生する社会の実現 生物多様性の保全	SDGsゴール SDGsターゲット	15, 17 15-4, 15-7, 17-7

1 事業概要

傷病野生鳥獣の野生復帰を目指した治療・リハビリ等を通じて、生物多様性の保全及び県民の野生動物保護思想の啓発を図る。

また、死亡野鳥等の調査の実施により、県民の安全、安心な生活を確保する。

ア 傷病野生鳥獣保護治療事業	4,802千円
イ 傷病野生鳥獣保護ボランティア事業	3千円
ウ 死亡野鳥等の調査	280千円

2 事業主体及び負担区分

(県10/10)

3 地方財政措置の状況

普通交付税(単位費用)
(区分)林野行政費 (細目)鳥獣行政費
(細節)鳥獣行政費
(積算内容)鳥獣保護事業の実施等に関する事務

4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員
9,500千円×0.5人=4,750千円

5 事業説明

(1) 事業内容

- ア 傷病野生鳥獣保護治療事業(通年) 4,802千円
傷病野生鳥獣の保護治療を適切に行う。
- イ 傷病野生鳥獣保護ボランティア事業(通年) 3千円
治療後の野生復帰に向けてリハビリ等を行う傷病野生鳥獣保護ボランティアを確保する。
- ウ 死亡野鳥等の調査(通年) 280千円
野鳥の死亡個体等(衰弱個体を含む)について、鳥インフルエンザ検査等を行う。
鳥インフルエンザ発生時には野鳥監視重点区域内の監視強化を行う。

(2) 事業計画

- ア 民間獣医師、保護ボランティア及び関係機関の連携による傷病野生鳥獣の保護。(傷病野生鳥獣保護治療事業、傷病野生鳥獣保護ボランティア事業)
- イ 死亡野鳥等の発生時に鳥インフルエンザ検査を実施。鳥インフルエンザ発生時には野鳥監視重点区域内の監視強化を行う。(死亡野鳥等の調査)

(3) 事業効果

- ア 野生復帰率の向上、生物多様性の保全、県民の鳥獣保護思想の啓発及び行政サービスの向上を図ることができる。
- イ 死亡野鳥等における鳥インフルエンザ検査等を迅速に対応することで、県民の安全・安心な生活の確保を図ることができる。
【活動指標(アウトプット)】傷病野生鳥獣受入診療施設指定、保護ボランティア登録、鳥インフルエンザ検査
【成果指標(アウトカム)】県民の鳥獣保護思想の浸透、県民の安全・安心な生活を確保

(4) 県民・民間活力、マンパワーの活用、他団体との連携状況

県民の保護ボランティア、埼玉県獣医師会と連携し、傷病野生鳥獣保護事業を実施する。

予算額		財源内訳						一般財源	前年との対比
決定額	5,085							5,085	△667
前年額	5,752							5,752	

事業内訳書

事業名	野生動物レスキュー事業費		
単位事業名	傷病野生鳥獣保護治療事業	予算額	4,802千円

○歳入

(単位 : 千円)

款・節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	4,802	△601	
合計	4,802	△601	

○歳出

(単位 : 千円)

節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
役務費	2	△1	事業関係資料送付料
委託料	4,800	△600	業務委託
合計	4,802	△601	

単位事業名	傷病野生鳥獣保護ボランティア事業	予算額	3千円
-------	------------------	-----	-----

○歳入 (単位 : 千円)

款・節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	3	1	
合計	3	1	

○歳出 (単位 : 千円)

節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
需用費	1	0	ボランティア委嘱状用紙
役務費	2	1	事業関係資料送付料
合計	3	1	

単位事業名	死亡野鳥等の調査	予算額	280千円
-------	----------	-----	-------

○歳入 (単位 : 千円)

款・節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	280	△67	
合計	280	△67	

○歳出 (単位 : 千円)

節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
報償費	49	0	状況調査有識者謝金
旅費	36	0	現地調査旅費
需用費	195	△67	現地調査消耗品
合計	280	△67	